

「シェイクスピアについて」

シェイクスピアを題材にしつつ「夢・友情」というテーマを追求

あらすじ (笑いとアクションの連続)

数時間後に大事なオープニングイベント(シェイクスピアランド)を控えた舞台裏。

それを請け負っているイベント会社の制作スタッフのチーフである 江口久之が前日に夢を見る。今日、これから始まるイベント(シェイクスピアを上演)でマクベス役の役者が刺されて死ぬ夢を。——予知夢。

夢の中で、死んだマクベス役は、それも今はこの場にはいない学生劇団時代に袂を分かった親友の匠士也(タクミ マサヤ)なのだ。なぜ彼なのだ。

…そんなはずはない。匠はここにはいない。今まで、江口が見る夢は必ず現実になってきた。嘗てもそうだった。同じシェイクスピアを上演した時も……

それは8年前の事、この舞台で江口の妹であり、親友の匠の恋人でもあったメイが舞台から落ちて亡くなってしまったのだ。

悩みながらも仕事に戻る江口だが……

一方で、演出家の宗像を中心に起こるドロドロした人間関係。

つまり、自信がなく、主役の重圧に全く耐えられていない「ロミオを演じる台場」

宗像に好意を寄せていて、その動向が気になって仕方がない「ジュリエットを演じる

マチコ」オーナーの息子で役の小ささに自分の役に納得のいかない「マクベス役の

ユタカ」ユタカの取り巻きなのにいつもおいしいところを持っていく「ハムレット役の

小手形」演劇にまっすぐなあまり、周りが見えていない「リチャード三世役の目黒」等々

人間模様が渦巻く。

やがて、そこに、あの匠が殺陣師として突然現れる。江口は匠にここから出て行って

貰おうと説得するが… 江口の夢が、正夢になるかも知れない。……………

江口の妹のメイが、ナビゲーター役(舞台から転落して亡くなっている)で、シェイクスピアではお馴染みの登場人物(いろいろな作品の主役)が入り乱れる。現実と芝居が交差し、聞いたことのある台詞。見たことのある人間関係。それが役者達と重なって…。そして舞台裏で起こるとんでもない事件。

「夢はいくつあったってかまわない、現実が夢を超えたら、それも新しい夢となる」

劇中で使われているシェイクスピア作品

<ロミオとジュリエット>

ご存知、シェイクスピアの代表作。恋に落ちたロミオとジュリエットの報われぬ恋の物語。

映画化もたくさんされており、「ウエストサイドストーリー」などもこの話をモチーフとしている。

名台詞「お行儀の良いキスなのね」「ロミオ! ロミオ! あなたはどのようにしてロミオなの?」

<ハムレット>

国王である父を殺された、王子ハムレットの復讐の物語。ちなみにイギリスではハムレットを演じると人気になりやすいという時代があり、大根役者のことを「ハム役者」と呼ぶ風潮もある。

名台詞「生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ。」

<マクベス>

魔女にたぶらかされ、夫人にたぶらかされ国王暗殺計画をする事になってしまったマクベス。

その運命やいかに・・・名台詞「どんなに長くても、必ず夜は明ける」

<真夏の夜の夢>

森に住む妖精の王たちのケンカが発端で妖精パックが惚れ薬をばら撒いた。

それによって、森に入った二組の男女の関係がこじれるコメディ作品。

今回の『シェイクス』でもかわいいパックを応援してください!

<リチャード3世>

自分勝手なりチャード3世が王位に就き、破滅していくまでを描いた作品。

<その他>

ローゼンクランツとギルデンスターン

ハムレットの脇役。この二人を主人公にした喜劇も作られている

